

第6回 小学校再編に関する地域住民説明会（芝田小学校区） 概要

- 日 時 : 平成30年7月31日（火） 19時開始
- 場 所 : 芝田小学校 2階 図書室
- 参 加 者 : 24名
- 教育委員会 : 吉岡教育長 他8人
(事務局)
- 内 容 : 1.開 会
2.教育長あいさつ
3.教育委員会職員紹介
4.配布資料確認
5.説 明
① 小学校再編に向けて
② 小松島市立学校再編基本計画（案）
③ 学校施設の利活用
6.質疑・応答（意見交換）
7.閉 会

地域・保護者等から出された主な意見と回答

○私は結論から言うと、今回の再編案は基本計画に反対の立場。1学年複数学級にしたらいいようにいうが、そうすると今、複数学級あるのは、南小松島小学校だけで、あとの10校は1学年1学級。そしたら、そういうところでは現状として教育効果が上がっていないということか。

→（回答）

決して今の単学級がダメというような、そういうことを申し上げているのではない。将来、人口減少とともに子供さんの数が少なくなってくれば、各学校の人数、今の11小学校の人数が今より少なくなる複式学級の懸念があるので、学校の再編を実施したいということで、今現在の複数学級がある学校とそうでない学校を双方とも否定しているということでは決していないので、その辺誤解がないようお願いしたい。

○複式学級だったらダメだということか。教育効果が劣るということか。

→（回答）

複式学級よりはクラスを作って同学年の子供さんが多い方が教育効果が図れるということで、そういうふうに申し上げているので、決してダメではないが、良好な教育環境を確保できるということで説明をしていると御理解いただけたらと思う。

○複式学級になる云々ということは、この説明資料の中のどこに書いてあるのか。

→ (回答)

私の方で懸念として説明を申し上げたということで、資料については、全て明記はできていない。今回の資料は、「基本計画(案)」のあくまでも抜粋・概要の資料なので、その辺についてこの資料に書いてないから、それを俯瞰する意味で私どもが説明を申し上げているというところで重ねて御理解をいただきたいと思う。

○一番大事なことを書面に書いてなくて、口頭で言ったことが重要な項目と言われても、ちょっと納得できない。

○学校がなくなるということは、地域社会がなくなるということにつながる。私たち子どもの教育というのは別に学校だけの教育ではなくて、地域社会とともにあるからこそ成り立っていると思っている。地域との交流が無意識のうちに凶られていることによって、人間形成とか、そういうことに大変大きな影響力があるのではないかと、思う。

今、私たちの国というのは、数合わせだったり合理性であったりだけを考えて物事を進めようという傾向が大変多くなっている。そういうことというのは、私たち子どもたちを養育していく方からすれば、もう少し柔軟性を持って、ただ合理的な部分だけ数合わせだけで教育というものを語ってもらいたくはないと思っている。やはり地域があってそれで学校、学校があって地域があると思っているので、やはりそういうことというのは、配慮しながら学校の編成を考えていただきたいと思う。

○やはり人数が多ければ良い教育ができるということではない。地域性が小学校にはついているというか、ずっと伝統がある。小さい学校でも先生の教育方針によって、目の届くところまでしていただけている。

田野の住民は皆、それぞれ近くに山がある。それで津波等がくれば山に逃げ、上がったなら一次避難場所としてはいけるが、やはりこの体育館も避難場所として、小松島全体で考えてみても避難場所として市の方から提供されている建物というものが非常に少ないと思う。この3日の日に市の連合会の総会があるが、その場でも私も申し上げようと思うのだが、やはり最近になってここ30年ぐらいに南海トラフの大きな地震が起こるのは7割強というふうなことで言われているので、防災上の点から考えてやはり再編というふうな形になってくると、地域は地域の人で避難場所が欲しいので、教育委員会の考え方もわかるのだが、やはり避難の事もご一考いただいて、今後の学校の施設等地域住民が利用できるような形で、そこらもこの再編の計画にはめていただきたいと思う。

○校舎の老朽化が進んでいる。差し迫っているということであるのに、既存の学校施設を

使うというのはちょっと疑問ではないのか。それからこういう休校というか、廃校になった校舎の再利用についてもきちんとした老朽化に対処した形でなかったら再利用できない。そこらのはっきりとした方針というか。

3校程度ということはこういう地域の説明会を経て、いろんな意見があった場合に4校に、あるいは5校になるという可能性もあるということか。

→ (回答)

学校の校舎、非常に老朽化しており、60年になるということで、あくまでも原則論として60年云々の校舎については敷地は使うが、原則として建て替えということになってよいかと。ただ、その学校敷地についても今現在の11小学校の敷地を使うのかどうかといったようなことも、これから敷地選定についてもまず考えていくということで御理解をいただけたらと思う。

「基本計画(案)」には3校程度と程度表示。最終的にはそれが2校なのか3校なのか4校なのか、また5校なのか、いろんな考え方ができると思う。そういった考え方ができるということで、こういった説明会をさせていただいているところ。現状ではあくまでも程度表示ということで詳細は今後考えていくということ。

○去年の夏に東北に行ってきた。大川小学校にも行ってきた。先程の地震のあった時に皆さんこちら(あいさい広場や恩山寺)の方にたくさん避難をしてきた。本当にたくさん各地見学をしたが全てなくなってしまって、高台を作るため前の山一つをベルトコンベアで全部運んで新しい土地を作っているところ。私たちのところには確実に南海トラフがやってくるということを考えて、新しい学校をどうしても3校にするというのであれば、バス通学するので、こちらの方に来てもらってもいいということになる。現在ある学校の人数の多いところに集めようというのではなくて、子ども達の安全とかを考えるとむしろ学童数が多い所よりは学童数が減っている地域、そこに新しい学校を、ここに作れとは言わないが、同じようにお金を使うのであれば、そういうことも考慮しながら新しい学校を作っていたきたいと考えている。ただ単に数が多いからそっちの方に合わせて作ろうという考えではなくて、やはり地震・災害とかそういうものを考慮の上で新しい学校の敷地を考えていただけたらと思っている。

○「基本方針」の計画の期間のところ、2030年度の完了を目途となっているが、現在小学校1年生とか2年生とかのお子さんが同じ学校で卒業できない可能性はあるのか。

→ (回答)

南中学校は28年の4月に開校したが、開校と同時にいわゆる坂野中学校と立江中学校は閉校してしまったわけだが、立江中学校に入学したのだけれども、卒業は南中学校でしまった、というようなということも起こり得ると思うので、開校時期によってどうしてもそういったことが起こり得ると現時点では思う。

○計画の期間についてだが、42年より先に再編するということはあるのか。

→ (回答)

2030年度完了目途ということでやはり学校を建設するとなったら、一発にというわけにはいかないで、「実施計画」をする時には段階的な開校ということが出てくると現時点では考えている。

○今、現在も芝田の学区にいて他の学校に行かれていますお子さんもすごく多いと思う。学校が再編した後はそういった地域がまたがってしまう、こちらがいいとか人数が多いから南に行かせるといった方も正直いらっしゃると思う。そういうのは許していくのか。それと今、簡単に許してしまっているという理由はこういったところにあるのか、疑問にあるので、今までのこととは話がそれてしまうが、教えていただけたらと思う。

→ (回答)

各小学校についてはそれぞれ校区というのがあり、いわゆる校区というのは住所地域ということになる。校区外の学校に行くためには理由というのが当然あり、いわゆる自由という話ではない。いわゆる保護者の方の勤務の関係であるとか、学校終わってから帰る場所であったり、いろいろな要素があり、そういった理由がある中で認められているということ。

○1学年1クラスの学校があってもいいと思う。さっき言われていた様に、少ないなら少ないなりに先生の目が届いていいなど。あえて2クラスというのはこだわりすぎても結局、こだわったところで偏ってしまってこっちは1クラスになってしまってこっちは3クラスになってしまった、というような、果たしてそういうこともないのだろうかということが疑問としてある。

○10年もあれば市の方で新しい企業を誘致するとか、日亜が工場を作って若い人がどんどん来てバイパスから北側に社宅を建てたらものすごく変わる。そしたら徳島のベッドタウンとして、この農業地帯の田野、芝生に住宅を建てるような計画を、小松島市全体を活性化させようと思えばいろんな方策がある。この教育委員会の計画を見て、市会議員とか市長とか、そこらあたりの連携というのがどうなっているのか。

→ (回答)

市の方も人口推計値を用いているような対策をやっている。そもそも、この学校「基本計画(案)」というのは教育委員会が作っているが、当然、市の方も第6次総合計画であるとか、地方創生のということで、いろいろなまちづくりに対して事業をやっている。小松島の人口が我々行政の人間が頑張るとどんどん増えていった時には、また当然学校の数も増えるということにつながってくるのかな、ということになるので、十分連携はしているのだが、そういった中で学校再編は考えているということ。

○人口や子どもが減っているのは事実なので、複式学級というのは私もいいとは思わないが、クラス替えができる2クラスぐらいあっても私はいいと思っている。今回のような3校という案も出てきたので、ちょっと人数合わせというのではなしに、多い学校があってもいいし少ない学校があってもいいので、3つにして等分するという考えではなしに、その適地を考えて、やはり4校、5校の方がいいかな、という考えが私にはある。

○学校が地域コミュニティの中心を担っている。新しい地域コミュニティができるとおっしゃるが、それは少し違う。学校が3つになったら若い世代の人が学校の近くに家を建てると思う。地域に昔から脈々と繋がってきた伝統文化行事ってたくさんあるが、それを担っているのは子どもたち。その子どもたちが村から地域からいなくなるということは、本当にそういう大事な伝統文化行事がなくなっていくこと。たくさん子どもたちが通えばいい学校ができる、という考えではなくて、地域の中で育つ子どもたちのあり方というものもしっかりと考えていただきながら、小松島市民がどういう生き方をしていくのかということまで考えながら学校というのはあるということだと思う。

○今までこういう風な説明会を他でもしてきたと思うが、雰囲気的にはどうだったのか。半分ぐらいでも大体の流れというのは、中田から始まって児安とか南校以外の地域であったら、どういうことがあるのか。

→ (回答)

今日で松中校区が全部終わるが、やっぱり雰囲気はいろいろ。若い方の意見であるか、当然公民館とか地域活動をされている方とか、これから家を建ててまだ子どもさんが小さいが学校に上げるのに対して、不安なこととか、いろんな意見がある。今回こういった「基本計画(案)」を作る際に有識者会議というお話もさせてもらったが、この有識者会議の中でも当然、保育所の保護者の方、幼稚園の保護者の方、小学校の保護者の方、また地域の方とか大学の先生とか、一般公募の市民の方とか、いろんな方がこの有識者会議に参加をいただき、この案ができた。その有識者会議の中でもいろんな御意見があり、そのいろんな御意見というのはこの「基本計画(案)」の附記事項というようなもの、こういった意見もあったということをお示しをさせていただいている。私ども教育委員会としても今回の地域説明会の時に、そういった御意見になるだろうとは正直なところ。ただ、あくまでもこの「基本計画」、基本的な考え方だけなので、これから学校再編の詳細を決めていく「実施計画」の中では、地域的にもいろんな意見があると思っているので、そういった意見をやはりお伺いする中で、小学校の再編を考えていかなければならないなというふうには思っている。各地区いろんな地域の状況も当然あり、学校に対して同じ考え方を持っている方もいらっしゃるし、地域によってはさまざまな考え方を持っているということもある。その辺が一概には言えないというところで、意見があったということで御理解をいただきたいと思う。

○最後にお願いしたいが、くどいようだが、こういうふうないろんな意見をまだ検討する必要があると思う。そこら辺を出していただき、ただ数だけ合わす再編ありきはないように検討していただく、ということをお願いしたらと思う。